サーキュラーシティ蒲郡
CIRCULAR CITY GAMAGORI

GAMAGORI SUSTAINABILITY REPORT 2023

蒲郡市サステナビリティレポート

蒲郡市は将来都市像として、「豊かな自然 一人ひとり輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」を掲げています。

そのためには、市民一人ひとりが地域への愛着と誇りを持ち、蒲郡市に関わるすべての方々のウェルビーイングを実現することが大切であると考えています。

経済・社会・環境のバランスが取れた持続可能なまちづくりの実現に向けて、蒲郡市では「ゼロカーボンシティ」「サーキュラーシティ」を目指しています。

このサステナビリティレポートでは、これまでの市の取り組みに加えて、蒲郡市に関わる方々の活動を掲載しています。取り組みの発信を通して、本市が目指すまちづくりについて知っていただき、皆様とコミュニケーションを図ることで未来を見据えた持続可能なまちづくりに向けての活動をより推進することを目的としています。

目次

サーキュラーシティ蒲郡
CIRCULAR CITY GAMAGORI

01 蒲郡市が目指す姿

市長メッセージ 05
蒲郡市について 06
編集方針 07
特別対談
蒲郡市はどのようなまちを目指すのか？ 08

02 蒲郡市の価値創造

サーキュラーシティ蒲郡 11
蒲郡市の価値創造モデル 13

03 価値創造ストーリー

価値創造ストーリー 15

04 取り組みの進捗

教育分野の取り組み 22
消費分野の取り組み 23
健康・観光分野の取り組み 24
食分野の取り組み 25
交通分野の取り組み 26
ものづくり分野の取り組み 27
これからの取り組み 28

05 データ／取り組み集

データ／サステナビリティの実現に関わる取り組み 30
GRIスタンダード対照表 33

01

蒲郡市が目指す姿

ステークホルダーの皆様と一体となって、「社会課題の解決」と「経済の活性化」、「社会・環境への負荷軽減」に取り組みます。

地球環境の危機への意識の高まりや平成27(2015)年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、環境、経済、社会をめぐる広範な課題を統合的に解決することの重要性が示されており、世界中に広がっています。令和5(2023)年11月、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)においてCOPとしては初めて「化石燃料からの脱却」に向けたロードマップが承認されました。気候変動と生物多様性の損失は相互関係にあり、自然や生態系の保護・保全および回復が重要であり、世界全体で、気候変動と同時進行で、生物多様性の保全、大気や海洋汚染の防止、資源循環等に取り組む必要があり、自然共生と資源循環が同時に実現される新たな社会の実現を目指しています。

このような中、本市においては2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を令和3年3月に宣言し、令和3年11月には、サーキュラーエコノミーを温室効果ガスの排出を実質ゼロにするための手段としてだけではなく、まちづくり全体で取り組み、蒲郡に関わる全ての人々がウェルビーイングを実感し、このまちを誇りと思う「君が愛する蒲郡」となるよう、「サーキュラーシティ」を目指していくことを表明し、ビジョンを「つながる 交わる 広がる サーキュラーシティ蒲郡」とし、経済、社会、環境の三側面を統合的に成長させ、持続可能な地域となるよう取り組んでいます。

ステークホルダーの皆様と一体となって、「社会課題の解決」と「経済の活性化」、「社会・環境への負荷軽減」に取り組み、“SDGs達成”、さらには“ゼロカーボンシティ”、“サーキュラーシティ”、“誰一人取り残さない持続可能な地域”の実現に向けて取り組んでまいります。

本レポートを通じて、皆様に本市の取り組みについてご理解を深めていただければ幸いです。

蒲郡市長　鈴木寿明

蒲郡市について

蒲郡市

蒲郡市は愛知県にあり、本州のほぼ中心に位置しています。渥美半島と知多半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されています。約47kmの海岸線沿いに4つの温泉地を持ち、市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣の多い美しい土地です。海から山にかけ変化に富んだ景勝は、万葉の歌人や近代の作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れました。

人口

人口 **78,140人**　世帯数 **33,547世帯**

2023年12月1日時点

アクセス

名古屋から約50㎞の距離にあり、東京から西へ約300㎞、大阪から東へ約250㎞と日本のほぼ中央に位置します。

温暖な気候

2つの大きな半島に囲まれた、温暖な気候で、冬中でも降雪しても積もることはほとんどなく、雨が降ることもまれで、雨の日は年に10%程です。

特徴的な産業

繊維工業

繊維ロープは日本一の生産量を誇り、「三河織物」は伝統産業です

フルーツ栽培

温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、温室みかんについては日本有数の出荷量です

深海魚の水揚げ

県内の9割以上の深海魚は蒲郡で水揚げされていて、深海魚を取り扱う店舗も多くあります

温泉地の観光業

三谷温泉、蒲郡温泉、形原温泉、西浦温泉の4つの温泉地があり、宿泊施設が豊富です

製造業

自動車関連の製造業や繊維工業、プラスチック製造業の従事者が多いです

編集方針

全体方針

本レポートは蒲郡市の最上位計画である「第五次蒲郡市総合計画」を実現するための主要な手段としてサーキュラーエコノミーを捉え、その実現に向けた計画である「サーキュラーシティ蒲郡アクションプラン」を策定しています。
本レポートでは、サーキュラーシティ蒲郡で設定している重点分野における取り組みを軸にした開示を行うことで、総合計画で示された市民のウェルビーイングの向上を目指す将来都市像の実現に向けた進捗を図ることを目的とします。

本レポートの位置付け

2021～2030 第五次蒲郡市総合計画
・市政の運営/方針の策定

2023～ サーキュラーシティ蒲郡アクションプラン
・サーキュラーシティの取り組み方針

2023 サステナビリティレポート
・取り組みの進捗報告

編集方針

本レポートは以下の方針で編集します。

○サーキュラーシティ蒲郡アクションプランで重点分野として設定した7分野（教育、消費、健康、食、観光、交通、ものづくり）のロードマップに関連した取り組みの内容を報告します。

○蒲郡市としての報告を行う上で、基本となる枠組みや開示情報を特定するためのガイドラインとしてGRIスタンダードを参照します。

○報告対象範囲は、蒲郡市および同市内の事業活動と市民活動を基本とします。

○2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）を中心に、発行時に進行中の取り組みも含めて報告の対象範囲とします。

WEBサイトのご案内

蒲郡市
https://www.city.gamagori.lg.jp/

第五次蒲郡市総合計画
https://www.city.gamagori.lg.jp/unit/kikaku/sogokeikaku-fifth.html

サーキュラーシティ蒲郡
https://www.city.gamagori.lg.jp/site/circularcity/

問合せ窓口 蒲郡市企画部企画政策課サーキュラーシティ推進室　〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町17番1号／TEL：0533-66-1226

TALK THEME

蒲郡市は どのようなまちを 目指すのか？

サーキュラーシティ、ゼロカーボンシティを目指す蒲郡市をどのようなまちと感じているか

榊原氏：私は蒲郡生まれの蒲郡育ちなので昔のイメージが結構強いです。山もあって海もあって美味しいものが年がら年中食べられて、友達の家に遊びにいくと織機の音と油の匂いがする、という中で育ってきました。最近は織機の音も聞こえなくて、一つの産業がなくなりかけているな、と感じています。

原野氏：蒲郡市は人口がだいたい8万人なんですが、この規模感がちょうど良くて、企業の発信が市民に届きやすいことがありがたいと感じます。自分の取り組みを発信する側としては、それを受け入れてくれる市民の体制がある、ちゃんと注目してくれるというところが嬉しいですね。

山村佳史氏：とにかく「人」が魅力的なまちですね。蒲郡市には5年前に移住してきましたが、自分の事業を展開して様々な人とつながりが生まれてくると同時に、未来のために高い志で面白いことを考えて、実行しようとしている人たちが多いということをすごく感じます。市外に向けた発信力、という意味ではまだ力不足かなとは自分自身も含めて思いますが、まちのポテンシャルは高いので大きな可能性を感じています。

サーキュラーシティの取り組みが始まってから感じたこと

山村まい子氏：私は2022年3月のシンポジウムで市長のサーキュラーシティの説明を聞いたとき「私のために言ってる！」と思いました。そのとき、市長は「最初に教育から進めていく」ということを掲げていらっしゃって、私も子どもたちに地球を愛することや蒲郡の海のことをもっと知ってほしいと思っていたので、つながっていると感じました。

鈴木市長：毎年子どもたちと小中学校の代表の方とお話するんですけど、蒲郡の良いところを聞くと、まず1つ目は豊かな海と山、2つ目は人の良さなんですよ。蒲郡は子どもと大人の距離も近いし、人と人の距離がやっぱり近い。人の結びつきだけは濃いんだけど、これまでは連携が取れているわけではなかったと思います。サーキュラーエコノミーやゼロカーボンというテーマを通して、産業と産業、人と企業が結びつくきっかけになっている。蒲郡市はサーキュラーエコノミーというテーマを提供しましたが、主役である市民の皆様や企業の皆様が結びつき連携していくことで、蒲郡がもっともっと明るいまちになっていくと思っています。

人と人とのつながりが
サーキュラーシティを
作っていくということを
伝えていきたい

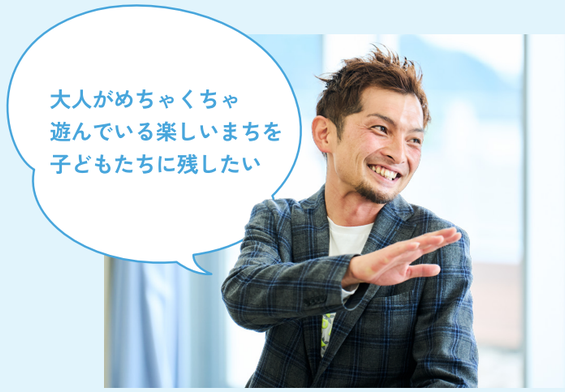
サーキュラーシティ蒲郡に これから期待していくこと

榊原氏：サーキュラーシティを宣言してからまち自体の雰囲気も変わって、事業者が同じ方向に向いたんですよね。それぞれで抱える問題を共有しつつ、それを解決する方法やアイディアも共有できるような新しい関係性が出来たと思います。今まで接点がなかった事業者と新たな取り組みができるようになったので、すごく素敵な機会をいただいたな、と思います。

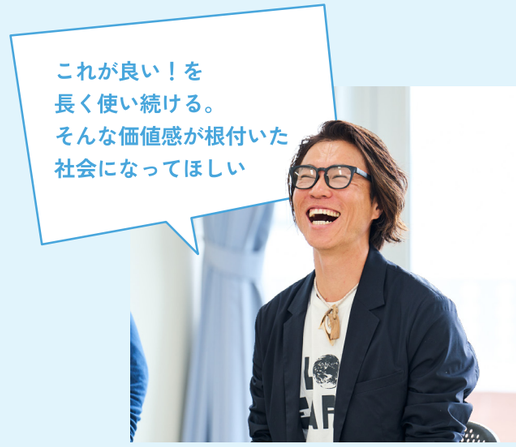
原野氏：僕らがやりたいのは、ローカルムーブメントを作ることです。それは文化を変えていくということだから、1人じゃ駄目で、波を起こしていくには人が必要だと思います。事業者の間でつながりが出来始めているからこそ、もっとこの取り組みを発信してもらって、より多くのローカルなプレイヤーを巻き込んでいきたい。

鈴木市長：サーキュラーシティは子どもたちのテーマである、と思っています。今はまだまだ企業と、我々世代で考えていることが多いんですが、今の環境のことや無駄になっているものを、子どもたちがいかにアイディアでつなげていくかを期待しています。

これからの蒲郡はどのようなまちになってほしいか



原野氏：大人がめちゃくちゃ遊んでいる楽しいまちになっていってほしい。今の事業も本当に楽しみながらやっています。その楽しみを作り合っていて大人たちが盛り上がってるという状態を作りたい。SDGsもサーキュラーエコノミーもきっかけであって、ゴールはウェルビーイングなんですよ。大人たちがめちゃくちゃ楽しく遊ぶように暮らして、楽しくてしょうがないよねと語り合っているような、そんなまちを僕は子どもたちに残したいなって思います。



山村佳史氏：今年はいろんな学校の先生とコミュニケーションをとる機会があり、市の取り組みが教師や子どもたちへまだ広まってないような気がすごくしました 。近い将来には、循環を意識したまちづくりやサーキュラーエコノミーを意識したモノの作り方・使い方が当たり前に浸透した社会になるといいな、と思います。今僕たちがやっているものづくりや教育の取り組みも、そういった社会のきっかけになれば、と心がけています。

榊原氏：このサーキュラーシティを軸に、今企業間のつながりが出来始めているんですけど、市民間のつながりが出来たら面白いなと思います。やっぱり繊維のまちだっただけに、縫製技術を持つ人はたくさんいるんですが、その技術を発揮する場所がなくなってきている。市内で端切れで作品を作るコンテストに、100点以上の応募が集まったりもしてるので、サーキュラーシティの取り組みが市民同士の交流にもなって、市民全体で盛り上がれる一つのテーマになるとより良いなと思いました。

山村まい子氏：子どもたちがみんなサーキュラーエコノミーという言葉を知っている。当たり前に生活の中に入り込んでいる、ということがすごく素敵だな、と思っていて。子どもたちとサーキュラーエコノミーの間をつないでいくことが、私たちがやるべきことなんだ、と今一生懸命頑張っています。

鈴木市長：みんなが当たり前にサーキュラーエコノミーの考えを持っている、おじいちゃんおばあちゃんが、サーキュラーシティっていうのはね、と孫に教えていく、それがあるべき姿だな、と。色々な人のつながりの中でサーキュラーシティ蒲郡が出来上がっていくということを、皆さんに伝えていきたいと考えています。

02

蒲郡市の価値創造

つながる 交わる 広がる
サーキュラーシティ蒲郡

自然が豊かになり、海や山が元気になる。
暮らしが豊かになり、街が元気になる。
サーキュラーエコノミーで、人と人、人と街がつながり、
人や企業、教育・健康・観光などの産業が交わる。
地域へ、そして日本、世界へ。
このまちから、サーキュラーエコノミーが広がる。
経済と、社会と、環境と、全部一緒に進めることで、
ミライが素敵になるサーキュラーシティへ。

ここは人とモノと企業が賑わうサーキュラーのまんなかとなる。
人々のウェルビーイングを叶え、誇れる街に。
世界が集うサーキュラーシティへの挑戦がはじまる。

観 光 tourism

地域資源を活かした自然と調和したここにしかない持続可能な観光地を目指します。

交 通 mobility

地球環境や人、社会に配慮した交通手段の選択と用途に応じた利用方法による交通手段の最適化を目指します。

消 費 consumption

環境負荷が少なく、生産から流通段階における透明性の高い商品・製品の調達や購入を進め、使用目的に応じたサービス利用を定着させます。

教 育 education

体験や知識の蓄積を通じ、多様な主体・世代が共に学び合い経済、社会、環境に配慮した活動を進めていくことを目指します。

健 康 health

健康寿命が延び、様々な人々と共に関わり合いながら、生涯活躍することで社会を支えていきます。

ものづくり manufacturing

設計から生産、利用、廃棄までのライフサイクル全体を見据えた循環性の高いビジネスモデルへの転換を目指します。

食 food

生産者と消費者の距離を縮め、生産から食卓、廃棄、再利用の「食べ物の循環」を推進します。

蒲郡に関わるすべての人たちのウェルビーイングへ

蒲郡市の価値創造モデル

基本目標

●笑顔つながる
幸せに暮らせる

●人と文化を
未来につなぐ

●豊かな自然と
ともに安心して
住み続けられる

●にぎわいと
元気あふれる

●人と人がつながり
快適な暮らしを支える

●市民とともに歩む

2030年の指標

価値を共に生み出す ひとを育てる

主観的幸福度	85%
地域への愛着度	85%
サーキュラーエコノミーの認知度	60%

価値を生み出す 事業をつくる

一人あたりの付加価値額	一次産業	239万円
	二次産業	894万円
	三次産業	820万円
創業者比率		5.0%

価値を生み出す 環境をつくる

CO_2排出量	46%削減
リサイクル率	25%
蒲郡市の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	500g以下

愛のことばで ひとづくり

- **健康**　関わり合い生涯活躍できる社会に
- **教育**　多様な主体・世代が学び合う

笑顔で働き いえづくり

- **消費**　経済・社会・環境に最適な消費行動の定着
- **ものづくり**　循環性の高いビジネスモデルへ

みんなの力で まちづくり

- **観光**　地域資源を生かした持続可能な観光地に
- **食**　食べ物の循環を実現する
- **交通**　地球環境・人・社会に配慮した交通手段へ

社会価値
- 関わる市民の社会的価値の向上
- 地域への愛着の増加

経済価値
- 収益向上
- 事業・新サービスの創出

環境価値
- 汚染の減少
- 廃棄の減少
- 自然の再生

君が愛する蒲郡

蒲郡に関わる全ての人々のウェルビーイングの実現

蒲郡市民の幸福度の増加

03

価値創造ストーリー

市内に広がるサステナブルなプロジェクト

市内外の事業者や市民、市が主導して、サーキュラーシティの実現に向けた
様々なプロジェクトが始まっています。

PROJECT 01
サンローズ株式会社 ／ P16・P28

PROJECT 03
有限会社原野化学工業所／P18

PROJECT 05
LOVEARTH・NAMIART／P20

PROJECT 02
三谷小学校／P17

〈蒲郡市全体／市外事業者と共同で進める取り組み〉

PROJECT 04
蒲郡市×株式会社メルカリ/P19・P23

- ●蒲郡市主催サーキュラーシティシンポジウム／P22
- ●アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラム／P22
- ●株式会社ダイセキとの実証／P23・28
- ●健康経営の促進／P24
- ●「まちじゅう食べる水族館」ラッピング自販機／P24
- ●トヨタコネクティッド株式会社との実証／P26・P28
- ●災害被災木などを原料にしたウッドチップ舗装／P26
- ●パナソニック株式会社との実証／P27
- ●日本特殊陶業株式会社との実証／P28
- ●Curelabo株式会社との実証／P28
- ●株式会社サニーライフサポートとの実証／P28

PROJECT 01

サンローズ株式会社
榊原功二氏

なぜ始めたのか

カーテンは布に少しでも傷が入っていると使用できず、大柄のカーテンになると左右2枚の柄を合わせるためにカットロスが出てしまうなど、端切れが出やすい産業です。廃棄コストの削減/廃棄の収益化のために有効活用できないか、というところから始めました。さらに、蒲郡市がサーキュラーシティの取り組みを始めてから、蒲郡市を通して市内や市外の事業者とつながることができ、工場から出てしまう廃棄を資源として有効活用するコラボレーションがたくさん生まれてきています。

取り組みの影響

様々なメディアにも取り上げられるようになって、今まで接点のなかった事業者とも一緒にプロジェクトを進められるようになってワクワクします。最近は東京ガールズコレクションとコラボして、端材を活用したアイテムを製作できないか、若手のクリエイターと一緒に取り組んでいます。

これから取り組んでいきたいこと

かつては「繊維のまち蒲郡」と言われてきましたが、現状は廃業している事業者も多く、技術を持て余してしまっている技術者が多いです。市内の繊維事業者とも協力しながら、縫製技術者さんの技術を掘り起こしていけるような新しいプロジェクトをつくっていきたいです。

端切れや廃棄カーテンで縫製技術者をつなげる

廃棄となる端切れ生地の活用	工場内の端切れを活用して自社内でエコバッグやランチョンマットを製造・販売し、端切れで作品を作るコンテストを店舗で実施しています。障がい者施設の縫製技術者の方に提供し、エプロンなどを製作いただき店舗で販売しています。
生地の包装用ビニールの廃棄活用	生地の包装ビニールが月に100～200kg程度出ていたところを、市内事業者と協力して農業用フィルムの材料に。
カーテンの反毛/リサイクル	廃棄となるドレープカーテンを反毛して自動車の中材や防音材に活用、ポリエステル100%素材のカーテンについてはペレット化して生地を制作。
PANECOと協力して建材に	生地に戻せない廃棄カーテンは市外事業者と協力して建材として利用。
レースカーテンはアップサイクル	反毛やペレット化が難しいレースカーテンは生地の刺繍を活かしてウエディングドレスにアップサイクルするプロジェクトを進めています。
廃棄食材で染色したカーテンの商品開発	ワインやオリーブの搾りかすなど廃棄食品で染色したカーテンを開発するなど、製品自体の取り組みも進めています。

大柄カーテンのカッティング

レースカーテンの縫製

キーワード

- □ 廃棄の削減
- □ 端材の有効活用
- □ 市内事業者・市外事業者とのコラボレーション

関わる重点分野

ものづくり

消費

PROJECT 02

蒲郡市立三谷小学校

なぜ始めたのか

5年生の総合の時間のテーマとしてSDGsがあり、小学校で解決すべきことを児童たちが探していく中で給食での食品ロスの問題が出てきました。実際に学校内でどれだけ残食が出ているのか、残食はどう処理されるのか調査した上で、できることを考えていたときに、4月に蒲郡市からコンポストの話を授業でしていただいたこととつながりました。そこで児童が直接蒲郡市にコンポストの相談をして取り組みを始めることになりました。

これから取り組みたいこと

今の観察は12月に一度終わりますが、児童の中でコンポストを増やしたい、自分でコンポストから作りたい、できた堆肥で植物を育てて実験を続けたい、など新しいやりたいことがたくさん出ています。とにかく子どもたちが自分で考えて動けるようにしていきたいです。

児童の声

コンポストに入れた食材が、いつ消えているのかを見たり、この食材を入れるとどうなるんだろう、とみんなで予想を立てたりすることが楽しい。給食の献立を見ながら、コンポストに入れる食材は何が適しているかを考えるようになって、給食を食べてる時も、残らないようにみんなで協力し合うようになった。

子どもたちが実験して育てるコンポスト活動

蒲郡市立三谷小学校の5年生では、2023年の9月から「ふるコンポちゃん」というコンポストを育てる活動をしています。蒲郡市が協力して、蒲郡市内の株式会社共伸紙工からダンボールコンポストを提供いただき、給食で出てしまう残食を有効活用する取り組みを進めています。5年生の1組・2組で毎日各クラス2人ずつ当番を決め、その日の残食の量やコンポストの温度や状態を記録していました。

1ヶ月ほど続けたところで、児童自身が「どうしたらこのコンポストがもっと育っていくのか？」と疑問を持ち始め、普段の記録から水分と酸素と養分が必要である、と考えました。コンポストがどういう状態が最適なのかについて実験を進めていて、取材当日は「ご飯を腐らせるとより分解が進みやすいんじゃないか？」と考えて、事前に腐らせたご飯をコンポストに投入していました。

そのほかにも、米ぬかを入れてみる子、水の量を変えて観察する子、よく混ぜることが重要と考えている子、などそれぞれ自分のテーマを持って日々実験しながら取り組んでいて、最終的には、10月で8,781g（児童調べ）の残食を減らすことに成功しました。

コンポストに残食を入れて混ぜている様子

キーワード

- □ 市と学校のコラボレーション
- □ 子どもたちが主導で進める

関わる重点分野

教育　食　消費

PROJECT 03

有限会社原野化学工業所
原野裕氏

なぜ始めたのか

本来のビジネスは原材料屋で製品を作っていないので、消費者から見ると分かりにくい、主役になれないと感じていました。だからこそ、人に届くオリジナルの製品設計をしたいという思いはありました。蒲郡市の取り組みで市内事業者が集められて、サーキュラーシティのビジョンを考えるセッションで各自の分野でできることを話し合う中で、このビジネスモデルを考えました。実際に取り組みを始めて、子どもたちに渡しながら、「これはうちの会社で開発した製品で、君たちが大人になっても、何回も資源循環をするアイテムなんだよ」と得意げに言えるようになったことが嬉しいです。

これから取り組んでいきたいこと

行政によるきっかけを頂いたので、今後は民間主導で、しっかりと経済が回るしくみづくり、ブランディングを行っていきたいです。地元の事業者さんも環境に対する対応に何をしたら良いのかわからないと感じている人は多いです。そんな事業者に提案ができるようになり、近くにマーケットがあるというメリットとサーキュラーエコノミーという大きなテーマでみんなが動いている連帯感によって経済を加速することができると思っています。商品力を付けて、市民の消費に溶け込んでいくことで、無理なく自然に経済と資源が循環することを目指したいです。

プラスチックの域内循環モデルの実現へ

プラスチックのマテリアルリサイクルを行っている原野化学工業所では、2022年から完全資源循環ビジネスとして「ハランガー」というハンガーを開発/販売する取り組みを進めています。蒲郡市内のプラスチック成形メーカーから出る成形不良をペレット化したものを材料として作られたハンガーで、市内の小池商事を通して販売。経年劣化や破損したら、原野化学で再資源化、ハランガーにするという資源ロスが0のビジネスモデルです。まず初めは蒲郡クラシックホテルに導入いただき、今はBtoBを中心に市内のホテルやメーカーに販売しています。市内限定で販売することで、地域内で回収ができ、輸送コストも抑えられています。当初は黒一色でしたが、今はピンク/黄緑/グリーンをテストで製作しています。ハンガー以外にも学校の給食容器や枕やプランターなど完全循環型の新しい製品開発に取り組んでいます。

ハランガー

キーワード

- □ 廃棄の削減
- □ 市内の事業者とのコラボレーション
- □ 異業種との連携

関わる重点分野

ものづくり

消費

PROJECT 04 | 蒲郡市 × 株式会社メルカリ

粗大ゴミの販売支援で循環の輪をつくる

蒲郡市は、2022年に株式会社メルカリと連携協定を結び、その中の取り組みとして、法人としてネットショップを開設できる「メルカリShops」に蒲郡市がショップを立ち上げました。そこでは、蒲郡市のクリーンセンターに持ち込まれる、まだ使える粗大ゴミを出品しリユースしています。2022年には、年間で49品/総額92,800円を売却し、家具やクーラーボックス、エレクトーンなどの楽器などをリユースすることができました。2023年には環境省の「使用済製品のリユースに関する自治体モデル実証実験」に採択され、実験的にシルバー人材センターより派遣いただいた2名が出品に協力しています。これまではクリーンセンターでの直接の引き渡しのみでしたが、作業員の皆さんの協力によって配送も実験的に開始し、10月から12月までの3ヶ月で202品出品し、79品を売却しました。

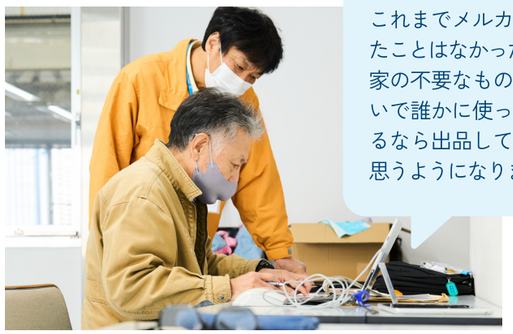
蒲郡市環境清掃課

なぜ始めたのか

以前は年2回ほどリサイクルバザールとしてクリーンセンターに粗大ゴミとして持ち込まれたものを市民の人に買い取ってもらうイベントを開催していました。これが「メルカリ」と似ているね、ということから始まり、「メルカリShops」を活用することで、自分にとってはゴミでも価値がある、自分たちでもリユースできるということが伝えられると考えました。

これから取り組んでいきたいこと

蒲郡市民の方々への周知に力を入れていきたいです。ゴミの分別の仕方やリユース/リサイクルの選択肢などを伝えていければと思います。ゴミという点ではリサイクルが難しい処理困難物をどう有効活用していくか、事業者の方とも連携して解決法を探していきたいです。



これまでメルカリを使ったことはなかったけれど、家の不要なものも捨てないで誰かに使ってもらえるなら出品してみようと思うようになりました

シルバー人材センターより派遣いただいた方が出品・発送を行う様子

株式会社メルカリ 経営戦略室政策企画参事　高橋亮平氏

なぜ始めたのか

「メルカリ」は一人ひとりが「メルカリ」で取引することで「捨てる」を減らし、限りある資源が大切に使われる循環型社会の実現につながるサービスです。その実現のためには、パートナーとしてパブリックな方と組むことは効果的なんです。蒲郡市が新しいことにチャレンジし、スピード感を持って取り組んでくれてこのプロジェトが生まれました。

取り組みの影響

蒲郡市との取り組みがメディアで取り上げられ、他の自治体からも問い合わせが増えていますし、蒲郡市にも視察や相談が増えているようで相乗効果が生まれています。ごみ減量に大幅に寄与する、何トンもゴミを減らすといったことは「メルカリ」だけではやりきれないからこそ、活動を通して市民の皆様に波及していくことが大事だと考えています。

キーワード

- □ 廃棄の削減
- □ リユースの促進
- □ 市外事業者とのコラボレーション

関わる重点分野

教育　消費　健康

PROJECT 05

LOVEARTH 山村佳史氏 × NAMIART 山村まい子氏

なぜ始めたのか

元々子どもたちの自然離れを感じていました。2016年に事業をスタートさせたものの、アクティビティを体験するお客様のほとんどが市外の方だったこと、更にはこの「海のまち 蒲郡」で育つ子どもの80%以上が蒲郡の海で泳いだことがない、ということを知り、このまちに住む人たちと海との間にとても距離がある様に感じました。そこで僕たちの活動を通じて、まずは地元の方々にこの海に関心を持ってもらう。そこからこのまちの魅力や自然、その楽しみ方を僕たちなりに伝えていきたい、と考えて『愛を持って地球と遊ぶ』取り組みをスタートさせました。

これから取り組んでいきたいこと

3年前から、NISHIURA OCEANKIDSとして蒲郡市内の小学6年生と中学3年生を対象に海の体験授業を行い、昨年は小学校6校・中学校3校で開催しました。この取り組みを発展させて、NAMI-ARTとしては、より子どもたちに地元の自然を守り続けたいと感じてもらえるように、子どもたちが藍染用の藍の葉を育てられる畑を作れたらよいなと思っています。LOVEARTHとしては、西浦での活動にサーキュラーエコノミーの要素を取り入れて、まずは西浦をサーキュラーシティ蒲郡のモデルタウンにしたいと考えています。100年先もこのまちの人と自然が共に栄えていくための行動ができる、そういった感性の子どもたちが育つ街にしていきたいと思っています。

海と山をつなぐ、アートとアクティビティ体験

LOVEARTH代表の山村佳史さんは、夏はSUPインストラクターとして西浦の海で活動、冬は木こりランバージャックとして東三河の山で活動しています。そして年間通して使い道のない間伐材を有効活用したオリジナルSUPボード・SURFボードの制作にも取り組み、木をもって山と海をつなぐ、地球に還るものづくりに取り組んでいます。山村まい子さんは、海を描くアート「NAMIART」の販売・ワークショップを行っています。ホタテや灰、岩から作られたカラー材など、制作に必要な素材は自然に還るものをこだわって選び、アートの制作を通して地元の海を愛する子どもたちを育てることに取り組んでいます。

間伐材を使用したSUPボード

NAMIART

キーワード
- □ 自然資源を活用した観光体験
- □ 子どもたちが参加できる取り組み

関わる重点分野

教育

観光

04

取り組みの進捗

教育分野の取り組み

教育分野の目指す姿

多様な主体・世代が共に学び合い、
経済・社会・環境にとって
最適な行動のための価値観の定着

教育分野の指標

市内でのサーキュラーエコノミーという言葉の認知率

現状（2022年）		2030年目標値
内容まで知っている 7.2%	》》	60%

内容まで知っている：7.2%、言葉を聞いたことがある：24.0%、
知らない：66.7%、無回答：2.1%

サーキュラーシティの実現に向けた担い手を育成するため、サーキュラーシティ蒲郡の取り組みを市民や市外に向けて広く発信してきました。

代表的な取り組み

サーキュラーシティの実践者の講演「サーキュラーシティシンポジウム ーサーキュラーエコノミーで考える持続可能なくらしー」の開催

サーキュラーシティを目指す蒲郡市の具体的な取り組み指針であるアクションプランを2023年3月30日に開催した「サーキュラーシティシンポジウム ー サーキュラーエコノミーで考える持続可能なくらしー 」において鈴木市長が発表。市内のサーキュラーエコノミー実践事業者などによるパネルディスカッションを開催し、オールバーズ合同会社日本代表 蓑輪光浩氏からは「サステナビリティと事業性を両立させるブランド戦略」をテーマに講演を行いました。多くの市民・市内事業者に向けて蒲郡市が目指すサーキュラーシティを伝える場となりました。

「アジア太平洋3R・循環経済推進フォーラム」への参加

日本、カンボジア、国際連合地域開発センターより招待を受け、本フォーラムに参加しました。様々な企業との連携事例を挙げ、サーキュラーシティの取り組みを紹介し、官民連携の重要性を発信し、「アジアの市長による都市におけるクリーンな土地、クリーンな水、およびクリーンな空気の実現に関するインドール3R宣言」への署名をしました。インドール宣言への署名は日本の自治体では大阪市について2番目です。

＜日時＞2023年2月8日から2月10日
＜会場＞カンボジア王国 ソカ シェムリアップ リゾートアンドコンベンションセンター
＜参加者＞アジア諸国等の政府及び自治体、学識者、国際機関等

消費分野の取り組み

消費分野の目指す姿

環境負荷が少ない商品・
製品の購入と使用目的に
応じたサービス利用の浸透

消費分野の指標

蒲郡市のリサイクル率

現状（2020年度）		2030年目標値
17.2%	》》	25.0%

経済・社会・環境との関係性を踏まえた消費行動を市民に体験いただく取り組みと、資源の有効活用を目指す取り組みの両軸について実施しました。

代表的な取り組み

株式会社ダイセキと連携協定を締結、実証の開始

サーキュラーシティの実現をテーマに、株式会社ダイセキと蒲郡市それぞれの資源及びネットワークを有効に活用することにより、蒲郡市の課題解決・地域の活性化を図ることを目的に2022年12月28日に連携協定を締結しました。
連携協定を受けて、市内の事業者などから排出される廃油を主原料とし、重油の代替燃料として「再生重油」の活用を行う実証を実施。市民・市内事業者から排出される廃棄物の処理及びリサイクルなどについて、豊富な経験と深い知識による情報提供や技術・処理方法の提案など専門的観点からの助言をいただき廃棄物削減/リサイクル率の向上を目指しています。

株式会社メルカリと連携し「メルカリエコボックス」を配布

蒲郡市と株式会社メルカリが連携し、リユース意識の定着を図る実証実験として「捨てる」から「長く使う」、「人に譲る」などサステナブルな行動の定着・行動変容を促すために家庭内の不要だが捨てるにはもったいない物品を一時的に保管しておく箱「メルカリエコボックス」を市民の皆様に無償配布。「もえる」「もえない」等の分別カテゴリーと同等に「リユース」も選択肢として定着させていくことで、モノをより長く活用する文化の醸成を目指しています。
※全国初の取り組み（愛知県蒲郡市、新潟県加茂市の2市で実施）

利用者アンケートでは「メルカリエコボックスに実際に不要品を入れた」と回答した方のうち42%の方が「メルカリエコボックスに入れたものを実際にリユースした」と回答しており、約4割の方のリユースにつながりました。取り組みについて感じたことの中で「家の不要品の整理や片付けに役に立った」と回答した方が63%と最も多く、「捨てる前に再利用を意識し行動するようになった」と回答した方が2番目に多く40%となっており、市民の意識変容にもつながっています。

健康・観光分野の取り組み

健康分野の目指す姿

様々な人々が生涯活躍できる
「つながり、交わり、広がる」
コミュニティの構築

健康分野の指標

健康づくりに取り組んでいる人の割合

現状（2020年）　2030年目標値

47.7% 》 **52.0%**

観光分野の目指す姿

地域資源を活かした自然と
調和したここにしかない
持続可能な観光地

観光分野の指標

市内に訪れた観光客数

現状（2020年）　2030年目標値

679.2万人 》 **747万人**

健康分野では様々な人が生涯活躍できる社会の実現に向けた事業、観光分野では地域資源を守りながら発信することを目指した事業を進めています。

代表的な取り組み

健康経営の促進

健康づくりに取り組む事業所に対し、協会けんぽが行うサポート事業。蒲郡市では、取り組み項目の基準をクリアし、「健康宣言」認定企業となった蒲郡市内の企業・事業所を紹介し、企業に向けた健康経営の促進を行っています。蒲郡市内では健康経営優良法人2023に会員事業所38法人が認定されています。

2022
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

「まちじゅう食べる水族館」ラッピング自販機の設置

「海のまち蒲郡」と地魚の魅力を市内外の多くの人にPRするため、2017年から「まちじゅう食べる水族館」プロジェクトを開始。市内の飲食店や宿泊施設などと連携し、水揚げされた地魚を使った料理や商品を提供しており、2023年には6月にオリジナルラッピングの自販機をJR蒲郡駅構内にあるナビテラスに設置。この売上金の一部を三河湾の環境保護団体に寄付する取り組みを進めています。

食分野の取り組み

食分野の目指す姿

生産者と消費者の
距離が近い
「食の循環」の構築

食分野の指標

農産物出荷額／水産物出荷額

	現状（2020年度）		2030年目標値
農産物	51億6,316万円	》》	59億3,000万円
水産物	11億3,600万円		11億3,600万円

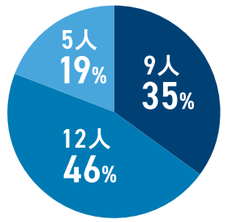
地産地消の促進と、資源化による食品廃棄物の削減を消費者とともに実現することを目指す取り組みを進めています。

代表的な取り組み

ダンボールコンポストの導入促進の取り組み

食品ロスは、食分野における大きな課題です。特に家庭内での食品廃棄の削減を目的として、家庭から排出される生ごみを再資源化するとともに、家庭から出るごみの減量を推進するコンポストの促進を進めています。2023年には、蒲郡市豊岡町にあるダンボール資材の企画・製造などを行う事業者である株式会社共伸紙工の協力を得て、ダンボールコンポストを試しに行っていただく方（モニター）を選び、各家庭において取り組んでいただきました。（2023年5月～8月の期間、30個配布）モニター体験者において、生ごみの減量の効果が「あった」、「減量の効果をすごく感じる」と回答した方は81%で、コンポストによる生ごみ減量の効果を実際に体感していただくことができました。

生活の中で生ごみの減量の効果はありましたか。



■減量の効果をすごく感じる　■減量の効果はあった
■減量の効果はあまりなかった　■減量の効果は全くなかった

シェフズトライテーブルと社会福祉法人楽笑との取り組み

変なホテル（蒲郡市海陽町1丁目4番1号）内にあるレストランである「シェフズトライテーブル」は、調理の際やビュッフェなどホテル内で発生した食品残渣を堆肥化し、有効利用する取り組みを進めています。作成した堆肥は就労継続支援B型、生活介護、短期入所、相談支援放課後等デイサービス、子ども食堂などを行う「社会福祉法人楽笑」へ提供。楽笑が運営する子ども食堂「NOCO'Sキッチン」で使用する食材を育てている畑の堆肥として活用しました。今後収穫された野菜はホテルや子ども食堂で提供し、食材の大切さを伝える活動を目指しています。

CHEF'S TRY TABLE
BY AQUAIGNIS

交通分野の取り組み

交通分野の目指す姿

地球環境や人、
社会にも配慮した最適な
交通手段の構築

交通分野の指標

日常の移動に不便を感じている人

現状（2020年）		2030年目標値
31.0%	》》	29.0%

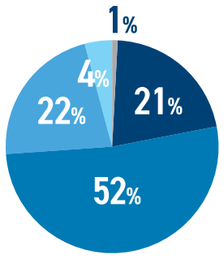
環境や人・社会にやさしい交通手段の整備と、本市に関わる人が利用しやすい仕組みの構築を目指した取り組みを進めています。

代表的な取り組み

まちなかモビリティプロジェクト

サーキュラーシティ蒲郡の社会実験として、2022年12月8日～11日にモビリティの体験会をトヨタコネクティッド株式会社と実施。クラスポ蒲郡、ラグーナフェスティバルマーケットの駐車場を借りて、電動トゥクトゥク、4輪アシスト自転車、電動キックボードなどを市民の方々に試乗いただける4日間のイベントを行いました。環境・社会・人にやさしい次世代のモビリティを、若者から主婦、高齢者の方など様々な世代の方に体験いただきました。試乗会に参加した方の約7割が、試乗会で乗車したモビリティを「自由に選んで、好きなときに利用できる」サービスが、「使えば使うほど地域の環境や経済に貢献できる」サービスであればより使用してみたいと回答しました。

「使えば使うほど地域の環境や経済に貢献できる」サービスがあればより使ってみたいと思うか



■非常にそう思う　■そう思う　■どちらとも思わない
■そう思わない　■全くそう思わない

災害被災木などを原料にしたウッドチップ舗装施工

蒲郡市形原町内交差点の視距改良を目的として、社団法人間伐材ウッドチップ舗装協会、矢作建設工業株式会社、トヨタ自動車株式会社の協力のもと、2023年11月に道路植栽帯のウッドチップ舗装施工を行いました。ウッドチップ舗装の材料には、同年6月2日に東三河に大きな被害をもたらした豪雨の際に発生し廃棄となった「災害被災木」を利用し、間伐材ウッドチップ舗装協会が保有する酸化マグネシウムを用いた「自然素材のウッドチップ舗装」技術を活用しています。また、災害被災木以外にも、本市で廃棄処理が困難で課題となっている「植え替えの際のみかんの伐採木」を材料としたウッドチップ舗装にも取り組んでいます。ウッドチップを使用することで、防草効果や断熱効果に加えて使用後は土に還すことが可能で、廃棄となる資源の有効利用にもつながっています。

ものづくり分野の取り組み

ものづくり分野の目指す姿

設計から生産、利用、廃棄までの
ライフサイクル全体を見据えた
循環性の高いビジネスモデルへの転換

ものづくり分野の指標

製造品出荷額

現状（2020年度）
261,624百万円

2030年目標値
294,105百万円

サーキュラーエコノミーを推進する取り組みの創出に向けて、事業者および市民や子どもたちと共同でのプロジェクトを進めています。

代表的な取り組み

愛知県立蒲郡東高等学校と森菊株式会社の取り組み

愛知県立蒲郡東高校と明治30年創業の市内の繊維商社「森菊株式会社」は、共同で古衣料を回収してアップサイクルするリサイクルプロジェクトを実施しました。高校は、生徒自身が家庭にある不用となった衣料等を学校に持ち寄り、「誰に渡すか」、「どのような商品をつくるか」などを検討。森菊株式会社は学校で回収した古衣料を糸に戻し、新たな商品を作成しました。

パナソニック株式会社と連携協定を締結

「サーキュラーシティ」実現のために、それぞれの資源及びネットワークを有効に活用することにより、蒲郡市の課題解決・地域の活性化を図ることを目的に蒲郡市、パナソニック株式会社と2023年8月に連携協定を締結しました。LED照明は従来の蛍光灯に比べ消費電力が低く、かつ長寿命ですが、まだ利用できるにも関わらず、建物の改装と共に廃棄されてしまうケースなどもあるのが現状です。最後まで良い状態と経済価値を保ったまま利用できる「将来のサーキュラーエコノミー型照明」について、市内の代理店や電気工事業者と共に製品に関する課題を検討しつつ、資源の有効活用による廃棄物削減とエネルギー利用に伴うCO_2排出量削減への貢献を目指しています。

これからの取り組み

サーキュラーシティの取り組みが社会実装していくことを目指して、事業者が主体となるサーキュラーエコノミーに関する事業が生まれることが大切であると考えています。そこで、事業者が実施するサーキュラーエコノミーに関する取り組みを支援する「実証実験プロジェクト」を行っています。

2023年度（令和5年度）実施プロジェクト

PROJECT 1

日本特殊陶業株式会社

CO_2でつくる・つながるプロジェクト
ハウスみかんの育成にCO_2を活用

PROJECT 2

トヨタコネクティッド株式会社

まちなかモビリティ
人・環境・社会にやさしい新しい地域移動インフラの開発

PROJECT 3

株式会社ダイセキ

廃棄物を燃料化するグリーン発電
市民の可燃ごみをバイオマス発電の燃料にする

PROJECT 4

サンローズ株式会社

アップサイクルウェディングドレス
廃棄カーテン生地をウェディングドレスに再活用

PROJECT 5

Curelabo株式会社

みかんの枝から繊維アップサイクル
みかんの剪定枝等の未利用資源を活用し繊維にアップサイクル

PROJECT 6

株式会社サニーライフサポート

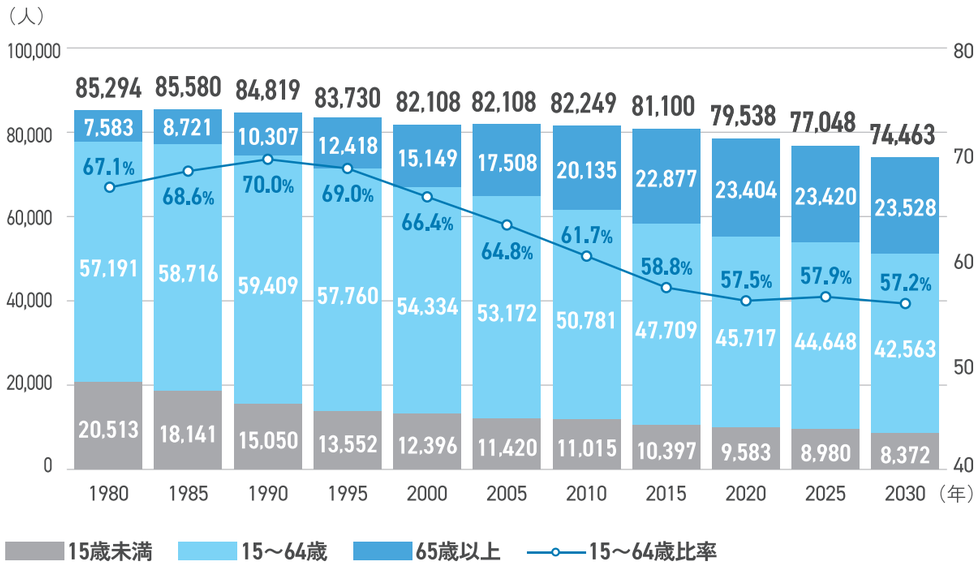
お昼寝ふとん循環プロジェクト
幼稚園・保育園のお昼寝ふとんを回収し再活用

05

データ／取り組み

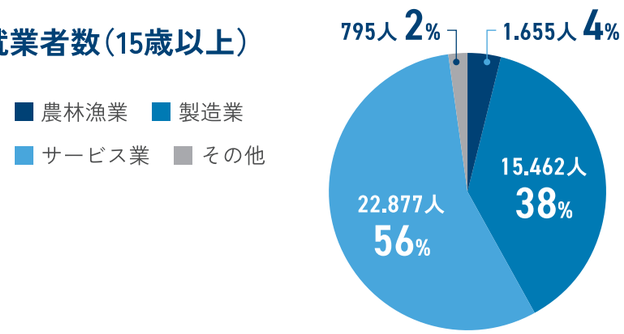
蒲郡市の経済に関わる状況

蒲郡市の人口は79,538人（2020年）で、生産年齢人口は、2030年時点で42,563人となり、2020年に比べ、3,154人減少（減少率6.9%）する見込みとなっています。
蒲郡市内の産業別就業人数は、小売業・運輸業・医療・福祉従事者などのサービス業が56%と最も多く、農林漁業の従事者は4%となっています。



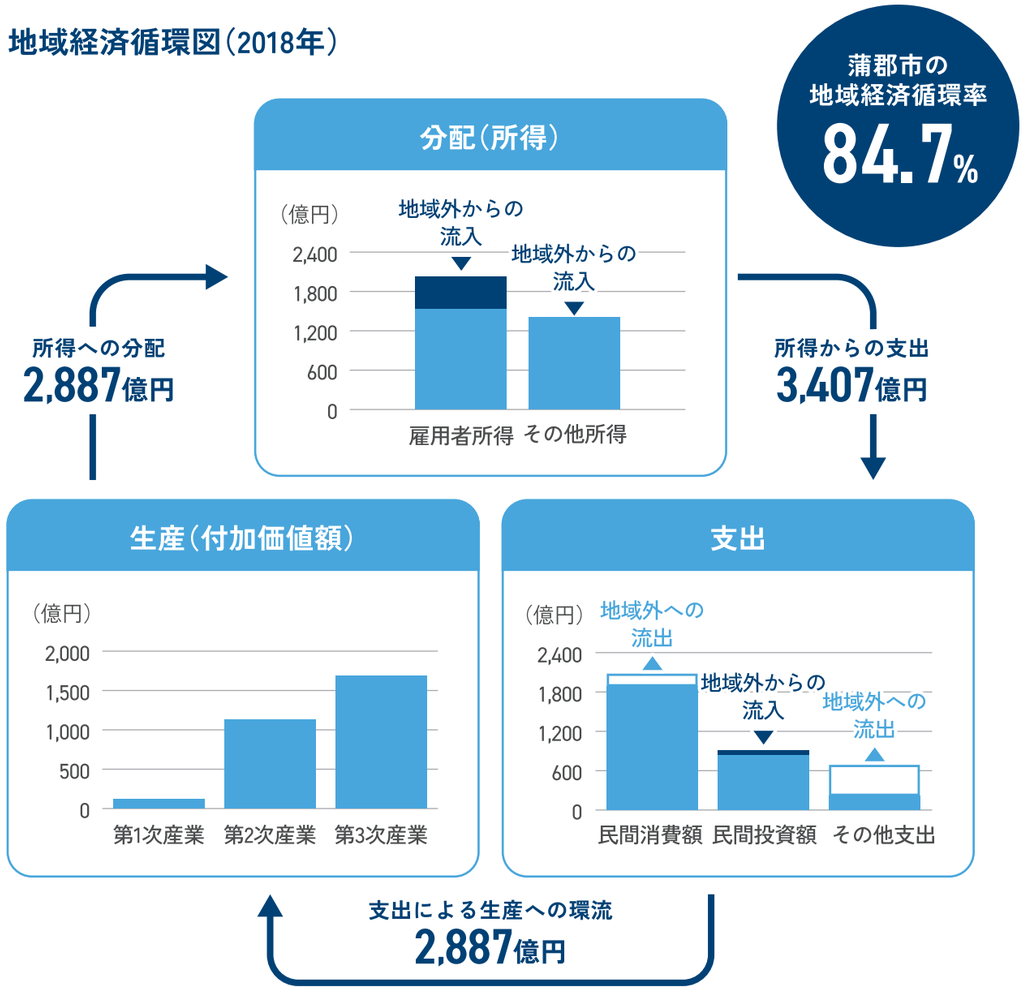
出典：国勢調査（1980～2020年）、国立社会保障・人口問題研究所（2025年推計値、2030年推計値）

蒲郡市の産業別就業者数（15歳以上）



地域経済循環とは、地域内の事業者が生産・販売活動により所得を稼ぎ、その所得を地域住民や事業者に分配することで、その所得が新たな消費や投資として支出が生まれることを指します。蒲郡市の地域内の所得の分配は2,887億円、所得からの支出が3,407億円です。
生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値を地域経済循環率と呼び、地域経済の自立度を示しています。蒲郡市の現状の地域経済循環率は84.7%です。

地域経済循環図（2018年）



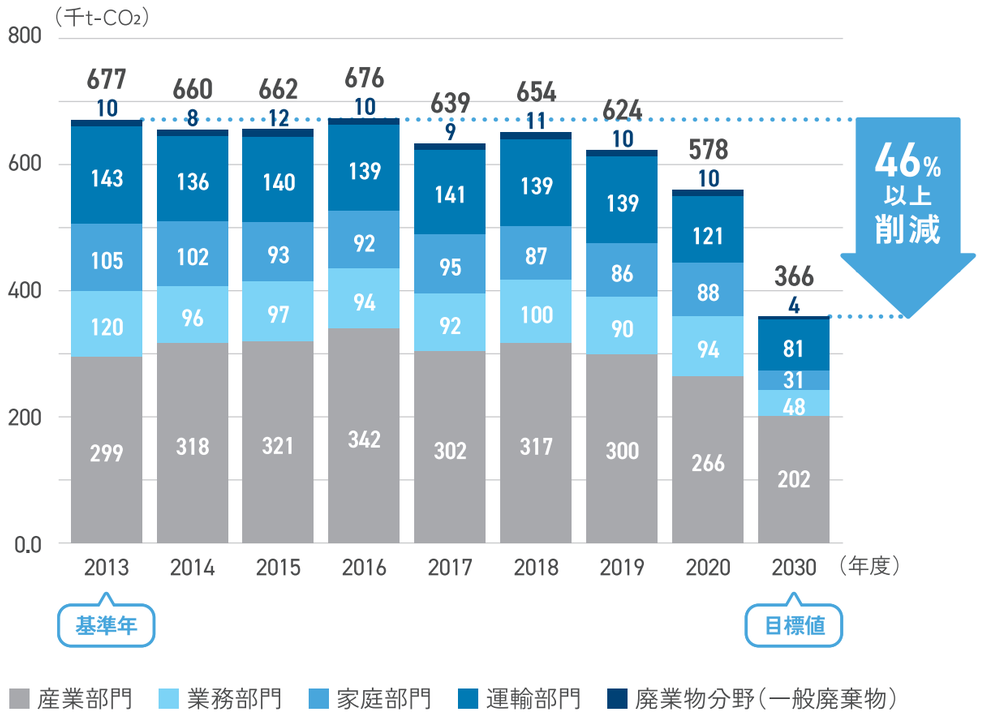
出典：日本政策投資銀行グループ　株式会社価値総合研究所

蒲郡市の社会に関わる状況

本市では、第3次蒲郡市男女共同参画プランの基本理念である「多様な個性を生かした魅力のあるまち」に基づき、誰もがお互いの違いを認め合い、希望に沿った生き方を選択できる社会を築いていくための「パートナーシップ宣誓制度」を2022年1月4日より開始しています。市民や事業者の皆様に、性的マイノリティの方などに対する理解が広がり、お互いの人権を尊重しながら共生できる社会、多様性が受け入れられる社会の実現を目指しています。また、2022年10月5日には蒲郡市は公益社団法人日本青年会議所（JC）が提唱する「ベビーファースト運動（子育て世代が子どもを産み育てたくなる社会を実現するための運動）」への参画として、蒲郡市長と蒲郡商工会議所青年部、蒲郡青年会議所がベビーファースト運動の活動宣言をしました。

蒲郡市の環境に関わる状況

蒲郡市は2030年度までに本市の温室効果ガス排出量を2013年度比で46％以上減少させることを目指しており、その実現のためには2013年時点から換算して約31万トンCO_2を減少させることが求められています。そのためには、特に本市の温室効果ガス排出量の半数を占める製造業・サービス業による温室効果ガス排出量削減の取り組みが不可欠です。



その他、森林吸収源等の二酸化炭素吸収源による排出量の削減等（約-2.4千t-CO_2）により削減目標-46.0％以上を目指す。

蒲郡市の取り組みとしては、公共施設の省エネルギー化・再生可能エネルギーの導入促進、次世代自動車の普及促進に取り組んでいます。具体的には、公共施設のLED化、公共施設への太陽光発電設備や蓄電池の導入、公用車への電気自動車導入を計画的に進めています。同時に、市民や事業者の地球温暖化対策の取り組みを支援し、住宅用地球温暖化対策設備導入費補助金、電動アシスト自転車購入費補助金、次世代自動車購入費補助金など脱炭素型のライフスタイルへの転換を促進します。

蒲郡市の環境に関わる状況

蒲郡市の生活排水処理率

2020年度 **77%** 》》 2030年度目標値 **95%以上**

生活排水処理率は、2015年の71.5%を基準とし、2030年に「95%以上」を達成することを目標としています。本市の実情に適合した生活排水処理施設の整備を推進し、2026年度においては汚水処理人口普及率95%以上を目指し、さらに下水道に接続していない世帯等へ接続指導を行うことによる、下水道接続率の向上を図ります。また、住民に対して自らが生活する周辺の側溝や水路などの身近な水環境だけでなく、河川や海などを含めた地域全般の水環境に関心を持ってもらうために、住民に対する広報及び啓発活動も行います。

蒲郡市の緑被率

緑被面積 **3,434.70ha**

緑被率 **60.46%**

市街地中心部の緑被率 **12.98%**

三河湾の海岸線に沿って東西に長く、平野を取り巻くように山地が分布しており、山地は、五井山・遠望峰山・御堂山・三ヶ根山が代表的です。市全体における緑被面積は3,434.70haで、市域の約60%が緑で覆われています。そのうち、山林と植栽地の合計は2,089.81haで、市全体の約37%が樹林地です。
また、自然特性としてはシダ植物種をはじめ豊富な植物相ですが、竹島の植物は熱帯雨林を思わせるような植物相であり国の天然記念物に指定されています。地域に生息する野生動物は、本市が渡り鳥のルートにあたり果樹園も多いことから、各地で様々な野鳥が見られます。

蒲郡市の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量（g/人・日）

2020年度 **603g** 》》 2030年度目標値 **500g以下**

ごみ排出量は近年は減少傾向にあります。ただし、1人1日あたりのごみ排出量は、家庭系（生活系ごみから資源ごみを除いたごみ）・事業系ごみ共にほぼ横ばい傾向です。家庭系ごみ排出量は愛知県平均と比較し、約1割ほど多い状況で、2020年度の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は603gです。2030年度には、これを500g以下に減少させることを目指して、市民・事業者・行政の三者が協力することが重要と考えています。市民は、環境に配慮したライフスタイルや5Rに取り組み、事業者は、製品の生産から廃棄まで適正なリサイクルや処分について責任を負い、市は、市民・事業者を支援するための施策を実施するなど、市民・事業者・行政が一体となった取り組みを促進します。

GRIスタンダード対照表

本レポートでは、蒲郡市としての報告を行う上で、基本となる枠組みや開示情報を特定するためのガイドラインとしてGRIスタンダードを参照しています。GRIスタンダードに示される開示事項のうち、以下の項目において本レポートでは開示をしています。

共通スタンダード

一般開示事項		
2-1	組織の詳細	P6 蒲郡市について
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	P7 編集方針
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	
2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	P13 価値創造モデル
2-7	従業員	P30 蒲郡市の経済に関わる状況
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	P5 市長メッセージ
2-23	方針声明	P7 編集方針
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	P15-20 価値創造ストーリー P21-28 取り組みの進捗
マテリアルな項目		
3-2	マテリアルな項目のリスト	P13 価値創造モデル
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	

項目別スタンダード

経済パフォーマンス		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	P30 蒲郡市の経済に関わる状況
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	P5 市長メッセージ
間接的な経済的インパクト		
203-1	インフラ投資および支援サービス	P15-20 価値創造ストーリー P21-28 取り組みの進捗
203-2	著しい間接的な経済的インパクト	
環境に対する開示事項：水		
303-1	共有資源としての水との相互作用	P32 蒲郡市の環境に関わる状況
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	
303-4	排水	
303-5	水消費	
環境に対する開示事項：生物多様性		
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	P32 蒲郡市の環境に関わる状況
304-3	生息地の保護・復元	
環境に対する開示事項：大気への排出		
305-1	直接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1）	P31 蒲郡市の環境に関わる状況
305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	
環境に対する開示事項：廃棄物		
306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	P13 価値創造モデル P23 消費分野の取り組み P32 蒲郡市の環境に関わる状況
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	
306-3	発生した廃棄物	
306-4	処分されなかった廃棄物	
306-5	処分された廃棄物	
社会に対する開示事項：雇用		
401-1	従業員の新規雇用と離職	P30 蒲郡市の経済に関わる状況
403-6	労働者の健康増進	P24 健康・観光分野の取り組み
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	P31 蒲郡市の社会に関わる状況
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	P15-P20 価値創造ストーリー

蒲郡市

がまごおりし